

新潟薬科大学大学院応用生命科学研究科博士後期課程学位論文審査基準

学位論文の審査にあたっては、日頃の研究指導、学位論文発表会等を通して、主に以下の審査項目について、審査委員会(主査及び学外の専門家1名以上を含む3名の副査)による評価を行う。

1. 学位論文審査の評価基準

- (1) 論文の題目の適切性:論文の題目は、明確な研究目的に沿って適切に設定された課題を端的に表していること。
- (2) 研究内容の妥当性:研究内容は、新規性、進歩性、有用性、独創性のいずれかをもっていること。
- (3) 情報収集能力:十分な文献や研究動向の調査を行い、自分の研究の意義や重要度と、他研究との関連性や相違を理解できること。
- (4) 問題分析力:問題の分析に基づいた実験方法・解析方法などアプローチの方法が適切であること。
- (5) 研究遂行能力:自ら課題を発見し、研究戦略を立案することができること。実験及びデータの解析をもとに、自身の研究の論理展開が適切に遂行できること。また、実験結果・解析結果から新たな知見を見出すことができること。
- (6) 論文作成能力:世界に向けて研究成果を発信できること。
 - 1) 論文の体裁:表紙、要旨、目次、章立て、結論、参考文献等が整うこと。
 - 2) 論理性・構成:論理が明晰に展開され、構成が体系立てられていること。
 - 3) 表現・体裁:引用文献、図、表などの記述が適切に表示されていること。

上記した評価基準から、博士学位論文を以下の4段階で評価する。

- A:優れた論文である。
- B:概ね良好な論文である。
- C:博士論文としての水準に達している。
- D:博士論文としての水準に達していない。

2. 最終試験の評価基準

公開の学位論文発表会において、研究内容のプレゼンテーションと口頭試問を行い、以下の基準により評価する。

- (1) 研究の内容について、十分に分かりやすくプレゼンテーションできること。
- (2) 関連する分野での当該研究の位置づけを明確に示すことができるとともに、将来的な展望について論じることができること。
- (3) 関連する研究分野に関する専門的な知識を有すること。
- (4) 研究内容についての質疑に正確に応答できること。

上記した評価基準から、最終試験を以下の4段階で評価する。

- A:プレゼンテーションが優れており、口頭試問に対する回答が明快かつ的確である。
- B:プレゼンテーション、口頭試問に対する回答は、ともに水準に達しており、かつそれらのいずれかに評価すべきものがある。
- C:プレゼンテーションと口頭試問に対する対応がともに水準に達している。
- D:プレゼンテーションあるいは口頭試問に対する対応のいずれかが水準に達していない。